守山三大まつり

祭礼は時を超えた歴史の語り部

GW
5月5日（月・祝）の
祭礼本番へ

若者の都会流出、子どもの減少など、数百年受け継がれてきた伝統の継承も徐々に難しくなっている中、地域ぐるみで取り組み、未来へ受け継いでいます。

多くの人に見物に来てもらい、地域の伝統と歴史にふれてもらうことが守り手にとっての最大のエールです。

問文化財保護課 ☎(582)1156

「長刀まつり」 コロナ禍乗り越え、10年ぶりの踊り当番に意欲

小津神社（杉江町）
長刀まつり

ユネスコ無形文化遺産構成要素・国指定無形民俗文化財「近江のケンケト祭り長刀振り」
杉江町（令和7年踊り当番）

約1，450年前、欽明天皇のころに琵琶湖のはんらんにより湖中へ流失した社殿を再建した際、氏子たちが喜びの踊りを奉納したのが、このまつりの始まりと言い伝えられています。

例年5月5日に小津神社とその周辺で奉納されます。小津・玉津の両学区11町で順番に踊りを担当し、8年に1度、当番が回ってきます。

令和7年は杉江町が踊り当番で、長刀行列や、きらびやかな衣装に身を包んだ子どもたちによるささら、太鼓を使った踊りが実施されます。

見どころは午前10時～11時ごろ。小津神社大鳥居前から長刀振りの行列が練り、神社境内で踊ります。

SNSを駆使、150人超の長刀行列であでやかに振る

中西 肇さん
杉江自治会長

コロナ禍の中止もあり、10年ぶりの踊り当番となりました。小津神社のおひざ元にあたる当番組ですから必ず成功させようと、例年より早くから準備を進めてきました。

祭礼に対する世代間の温度差や、遠方に住む参加者の距離を縮めてくれたのが住民の提案で始めたSNSです。おかげで150人を超える長刀行列を披露することができます。

たくさんの人に見てもらうことが励みになります。ぜひ、見に来てください。

㊤太鼓打ちの練習
㊥新調した衣装の確認
㊦勢ぞろい（行列）の練習

◇3月から猛練習をしています。4月13日は本番を想定した「勢ぞろい」で、いよいよ気分も盛り上がってきます。

◇踊りの衣装や道具を新調したり、費用負担を軽減するためのクラウドファンディングも始めました。

祭礼や練習をInstagramで発信中

◇当日は、見物する人に安心してもらうため、駐車場や観覧席を用意しました。

「すし切りまつり」 境内で披露する長刀振りが大きな自信へ

下新川神社（幸津川町）
すし切りまつり

ユネスコ無形文化遺産構成要素・国指定無形民俗文化財「近江のケンケト祭り長刀振り」日本遺産「すし切り神事」

すし切りまつりの名で親しまれる祭礼は、「すし切り神事」と、ケンケト祭りとしての「長刀振り」や「かんこの舞」で構成されています。

すし切り神事は約2，000年前、崇神天皇の息子である豊城入彦命が幸津川を訪れた際にフナの塩漬けを焼いてさしあげたことが起源とされています。5月5日には、かみしも姿の若者2人が、鮒ずしを定められた作法にのっとって一糸乱れず切り分けます。

すし切り神事の後には、長刀踊りやささらの音色と共にかんこの舞が行われます。かんこの舞は雄雌の獅子が求愛する様子を表現しており、子孫繁栄を願う踊りです。

㊤かんこの舞
㊦長刀振り

増田 茂輝さん
伝統文化保存会 会長

形骸化していた長刀振りが60年ぶりに復活して3年目。今年も、伝統文化ども教室で練習してきた20人以上の子どもが参加します。

つたない技ですがたくさんの人に見に来てほしい。大きな自信をつけた子どもたちにとって、故郷の祭礼がうれしい思い出になってくれたら、大人になった時も大切に感じてくれると信じています。

今年、すし切り神事（日本遺産）ですし切りの大役を果たす今井 翔愛さんと若松 尚輝さんは、枇杷の葉をフナに見立てて練習を重ねています。

「豊年踊り」 かかわった子どもたちの心と故郷をつなぐ魔法

馬路石邊神社（吉身4）
豊年踊り

市指定無形民俗文化財

昭和40年代に一度衰微してしまいましたが、その後、有志の努力により昭和51年に保存会が結成され、復活しました。歌詞や踊りから、元は、中世の田楽踊りの系統と考えられます。現在は毎年、5月4日・5日に奉納されます。現在でも使われている太鼓の胴内に萬治3年の記述が確認されている、歴史ある祭礼です。

踊りは太鼓持ちと太鼓打ちが中央周りで音頭取りと稚児が輪をつくり、音頭取りの歌詞に合わせて舞い、奉納されます。歌詞は湖南地域で行われるサンヤレと似ていますが、節回しがやや異なります。

大林 智さん
馬道石邊神社 宮司

復活したばかりの豊年踊りを見た地域のお年寄りがうれし泣きしていたのを覚えています。今は、豊年踊りに参加していた子どもがお母さんになったり、遠方に出たりした後も帰郷して飛び入り参加してくれることがあります。

子どもの時、市指定文化財の祭礼に関わった思い出はずっと大切に残るもの。その思いが祭りの役割であり、人と人、人と時間をつなぐ魔法です。

囃子や音頭、太鼓打ちに踊り子、舞を奉納する巫女まで、子どもたちは本番に向けて神社の社務所や境内でOB・OGを先生役に練習しています。